

# 行政視察報告書

教育民生委員会 行政視察		令和元年7月24日（水）～7月26日（金）
視察先 及び 調査事項	郡山市	大安場史跡公園の整備と文化財の活用について
	文化財活用 センター	文化財活用センターの取組みについて
	調布市	不登校特例校の取組みを中心とした不登校児童生徒に対する支援について
	八王子市	(1) 不登校特例校の取組みを中心とした不登校児童生徒に対する支援について (2) 市立中学校における夜間学級の取組みについて

## ①郡山市

\* 大安場史跡公園の整備と文化財の活用について

（文化振興課振興係の橋本さんより説明を受ける。）

平成3年に発見され同6年から測量調査、平成12年9月国指定の史跡とされた前方後方墳。全長100m前後、前方部2段、後方部3段の4世紀後半に築造された。

平成13年から史跡範囲約2.3haを公有化、平成16年『郡山市大安場史跡公園基本計画』を策定、都市公園として整備を始める。平成16年より20年度にかけ、総工費18億円で発掘、復元、古墳整備、ガイダンス施設整備などを行う。

運営は(財)郡山市文化・学び振興公社が指定管理で行っている。平成21年会場以来、ガイダンス施設へは毎年5万人が入場されている。

ガイダンス施設は、東北地方の史跡から初めて出土したという『腕輪型石製品』の形を模した建物であり、体験学習ができるスペースがあり、また、実物大の木棺、古代人のレプリカなどが展示された体験型の施設となっている。腕輪が実際の自分の手に移せるプロジェクターなど、見学して楽しい仕掛けもあった。

実際古墳の頂上部まで階段で登ってみると、史跡の全容を見ることができ、また、公園利用として多くの市民が集える場所になっていると感じた。一方、周辺の宅地開発は郡山では最も古くから開発された地域であり、たまたま、当該遺跡の場所が入会地で地権が複雑に絡んでいて、手がつかなかったことが幸いした、との話であり、周辺の遺跡群としての調査は不可能だったようである。

本市の弘法山古墳と地理的に共通部分があり、発掘、修復、保存活用においては、何かと参考にすべき点が見受けられた。

## ②文化財活用センター

\*文化財活用センターの取り組みについて

(樋口総務課長より説明を頂く)

東京国立博物館内の文化財活用センターの事業について具体的な取り組みのせつめいを受けた。

貸与促進事業では、地域館で展覧会が開催しやすくするための、運賃・保険を国立博物館が負担する事業であり、活用が期待できる。

意見交換の中で、文化財に興味を持つ、新たな層へのアプローチについて、修学旅行の件数の増加、また、見学方法の多様化、自由見学の増加などにより、学芸員の柔軟な対応が必要とか、なりきり美術展のような体験型が必要とされている、との話。

インバウンドは全体で3割、常設展示では5割、また、平日での来場が増えているとのことであり、多言語化、しかも外国人にとって理解しやすい解説が必要との説明。

データベース化については、研究者向けのみではなく、だれでも見られるよう、またより詳しくすることで、悪用の防止にもなる、との事。

マンガの利用として、三国志の横山光輝、NHKの人形の利用などを紹介された。

専門員の育成については、専門分野のみならず他分野の知識経験も必要、適性の把握などの人事の大切さも指摘された。

NHKの朝ドラで、学芸員を主人公にした作品がでないかな、と言われた言葉が残った。

## ③調布市

\*不登校生支援『はしうち教室』を視察、西川指導主事より説明を受ける

『はしうち』とは雛が卵からかえるとき、親鳥が助けるために外から卵の殻をつつく事、とパンフレットに説明があった。

調布市立第7中学校・はしうち教室。定数は1学年15名マックス45名。現状24名の在籍。生徒は転校して入る。体験入室も可。総授業時間1015時間から910時間に低減。正規教員4名でコミュニケーションスキルトレーニングの充実を図っている。

2教室。出席後くじ引きで席を決める。良くも悪くも効果的。1日頑張れば次の日は変わる。コミュニケーション能力のアップにつながる。

スクールカウンセラーは都から1週、市から1週の派遣。東京学芸大学からの心理カウンセラーとしての支援を受ける。

不登校対策の調布市予算は年間100万円。

不登校予備軍として、欠席日数を教育委員会で全数把握、該当案件に対して不登校支援委員会で対応策を検討している。

学力評定は行わない。

課題は色々あるが、専科の教師が不足。

昨年の卒業生 15 名は全員志望する高校へ入学できた。対応高校（チャレンジ都立）、サポート付き私立高校、通信制高校など。

全国からの視察があり、週 1 回の割合で対応。本市への導入は効果、需要など含めて、より深い検討が必要と思われる。

#### ④八王子市

##### \*不登校特例校『高尾山学園』視察

黒沢正明学校長より説明を受ける。

民間企業出身で 7 年目の黒沢校長先生より、不登校特例校として柔軟な教育課程を編成して各種の取り組みを紹介される。市長の（当時の）トップダウンにより今までに無い不登校対策として設立された。楽しい・嬉しい・美味しいをキーワードに安心できる居場所の確保と学ぶ意欲、知的好奇心の醸成をはかる。プレイルーム、保健室、相談室は授業中いつでも抜けて出入り自由。

知・徳・体ではなく、社会性の育成と基礎学力の定着・向上を目指す。教員の目標は、出席率向上、年間平均 70%、2、出席率改善生徒、対前年比 70%、3、学校行事への参加率、70%、4、始業時までの投稿率、50%（出席率 70%の 7 掛け）、授業への出席率、50%（同）などとなっている。

大人が寄ってたかって子供にかかわる、つまらない授業は抜けても構わない、プレイルームに勝てる授業は難しい、など、教育全般にかかわる問題を内包しつつ、現状に対して大胆な施策を行う八王子市の姿勢、また、それにこたえるべき対応として、黒沢学校長、市教育委員会の考えは、民間出身の発想が大きく取り入れられていると感じた。

都立高校進学にあたっての受験ハンディはない、との事であった。

本市への導入を検討するには、都市規模、環境の違いをしっかりと見つめつつ、参考にすべき点を見出すことが必要だと考察する。

夜間学級は資料のみ

令和元年 8 月 5 日

松本市議会議員 村上幸雄様

委員 上條俊道